

# ミニペックス<第9回世界の植物切手展>

2018.6.28(木)~7.1(日) 切手の博物館  
主催：JPS 植物切手研究会



ハンガリー 1954年

—— ごあいさつ ——

植物切手研究会 代表世話人 嘉ノ海暁子

昨年に続き第9回世界の植物切手展を開催します。展示されている切手は、約 35,000 種の植物切手、約 5,000 種のキノコ切手の一部に過ぎませんが、テーマによって選び抜かれもので必ずや皆様を魅了するものと思います。展示は①特定テーマの企画展示、②会員の応募による一般展示、③会員外の方による特別展示で構成しています。

<世界の植物大集合ー超ミニ植物園>をお楽しみ下さい。

## —— 展 示 作 品 ——

### 1 作品案内 植物切手研究会 (フレーム数 1)

展示作品の概要、展示の流れをベースに、作品鑑賞に資する材料を提供します。

### 2 季節の果物 宝田 嘉久雄 (4)

**【企画展示】**

世界の果物を気候帯別・収穫季節順に配列しています。日本を中心にした身近な温・暖帯産フルーツ、イチゴ・サクランボ・ブドウ・リンゴ等から始まり、多彩な熱帯産のトロピカルフルーツ、バナナ・パイナップル・マンゴー等へと展開しています。各々の果物について、その歴史や健康効果などもお楽しみください。

### 3 ヤシ科 石田 徹 (4)

ヤシ科は油脂をはじめとした食用、繊維利用、庭園樹など資源植物として重要な科です。ここでは体系に沿って展示し、郵趣的分類についても、エッセイ、プルーフ、目打バラエティなどの他、使用例も加えて構成します。この作品は、スタンプショウ 2018 で金賞グランプリを受賞し、「トロピカル切手蒐集の醍醐味を感じさせる理想的な作品」「審査員の力量が試される無言の圧力も感じた」と評されたものに、マテリアルの追加改訂をおこなったものです。

### 4 各国普通切手からー2 今井 郁 (1)

各国普通切手の中から、植物切手を含むセットを、昨年に引き続いて紹介します。普通切手のサイズは、外国も含めて小さいのが一般的です。しかし、切手で自国の風物を宣伝しようとする趣旨から、大型サイズで普通切手を発行する国も、少なくありません。

使用済のページもありますが、バランス感を保つため、黒マウントを使用しました。

### 5 蓮一人との関わり 大畑 紀子 (3)

蓮(ハス)は約一億年前から地球上に繁殖し、今日までその姿を太古のままに伝える貴重な植物です。蓮は、根は泥中にあっても、汚れに染まらず清らかな花を咲かせるので、仏教と深く結びつきました。また、中国では高潔な君子の姿にたとえられました。そして吉祥文様や芸術の題材としても重用されました。第一章で蓮の生態を、第二章でさまざまな人との関わりを展開しました。

## 6 ヨーロッパの野生蘭 奥田 重俊 (2)

ヨーロッパを含む北半球には広くラン科植物が分布しています。それらは、あまり目立たない小形の草本で、やせた土壌の草原や、林内などにひっそりと生活しています。日本にも属レベルでヨーロッパと共通するランが見られます。例えばキンラン属、カキラン属、ツレサギソウ属、トラキチラン属などがあります。野生蘭は世界のどの地方、どの国でも減少し、大部分のランは絶滅危惧種に指定されており、生育地の保護が必要です。

## 7 ユリの花園 今井 正一 (3)

ユリの花は万葉集の歌にも詠まれ、その美しさや香りで昔から人々に愛されて来た花です。各地に特有の自生地があり、栽培も盛んです。最近の花は改良が進み、色や形、香りが素晴らしい花が次々と誕生しています。

## 8 東南アジアのラン 宝田 嘉久雄 (2)

ランは熱帯だけでなく、地球上のあらゆる地域に生育しており、その数は世界中で2万5千種以上。特に東南アジアは世界でも有数のランの宝庫で、なかでもスマトラ、ボルネオの熱帯雨林は、ラン発祥の地といわれています。日本とは政治的にも経済的にも年々関係が強まっている東南アジア8ヶ国を、国別に2フレームに纏めて見ました。

## 9 バラ科の植物 山田 精一 (5)

バラ科の植物は、科名が由来するバラを始め、身近で馴染み深い植物が多くあります。サクラ、ウメ、モモなど日本で古くから親しまれている花木類、また、イチゴ、リンゴ、ビワ、ナシの果実など、食用に供せられるものも多く、私たちの生活に深く関わっています。植物学的には、花卉・萼(がく)は5枚、雄しべは10本ないし多数、雌しべは1本から多数分立するものまで多様。葉は単葉または複葉で、根元に托葉があります。近年の分類方法では、バラ亜科・チョウノスケソウ亜科・モモ亜科の3亜科に分けられます。本展示では、鑑賞や食用として人々に親しまれる種を中心に展示します。

## 10 サボテン 藤波 誠治 (3)

【招待・特別

### 展示】

夏の夜をいろどる赤色の孔雀サボテンの花、白い大輪の月下美人や夜の女王の花、黄花をたくさんつけるうちわサボテンの花、筒形で白いウニサボテンの花、そして小さな花を輪のようにつけるマミラリアの花、サボテンの魅力は金属光沢の美しい花です。西部劇に登場する巨大な柱サボテンにもいくつもの花が咲き、幹には鳥が巣を作ります。さまざまなサボテンの世界を切手でご紹介します。

## 11 小型印に描いた夏の花たち 澤口 尚子 (2)

これまで140あまりの小型印を描いてきましたが、その中でも植物と昆虫の数が突出しています。それらの小型印から、いずれもなじみのある夏の花たちを集め、小型印原図やカード、それらの原画を中心に展示いたします。

## 12 北海道花樹紀行 横谷 一宏 (2)

北海道は、春を告げる桜からはじまり、夏は有名なラベンダーをはじめ、離島や高山の可憐な花など、広大な道内各地に花が咲きそります。この作品では、北海道に咲く花や樹を季節ごとに、切手や風景印、各種の官製葉書などで紹介します。

### 13 世界の農産物 奥田 重俊 (3)

地球上の人類の生命を保障するのは植物資源です。その資源の代表はおもに穀類ですが、同時に、その土地に適応した果物、野菜、各種有用作物なども生産され、人間生活の多様なニーズに対応しています。世界各国の穀類や有用作物の多くは自国で消費されますが、流通機構の発達により国外に輸出されるものも多く、居ながらにして世界の食物を消費することが出来ます。自然の豊かな恵みがこれらの各国の切手に描かれています。

### 14 ヒダナシタケ目に属するキノコ 山田 昌弘 (1)

ヒダナシタケ目に属するキノコは、キノコ切手全体の1%以下の発行数です。その中の半数ぐらいはアンズタケの切手です。当初は一番下の属で分類予定としていましたが、リーフ作りがむつかしく、属の上科にて分類し作品としました。

### 15 植物を描いた普通切手—その外信使用例 嘉ノ海 暁子 (2)

昨年に引き続き、植物を描いた普通切手の外信使用例を展示します。今回の料金期間は1972年7月1日から1976年1月24日、及び料金改定後の1976年1月25日から1981年6月30日で、この間に差し出された外信書状・はがき・印刷物等の事例を料金体系に従って紹介します。植物を題材とした普通切手は低額面のため、外信便では多数貼あるいは混貼となる場合が多く、切手の組み合わせも楽しめます。

### 16 薬草療法の歴史 谷 覺 (1)

古代から現代までの薬草療法の変遷を概説します。古代には薬草を単独で用いたようですが、高名な医師が病気について様々な説を発表するようになると、多くの薬草を組み合わせて治療を行うようになりました。ところがルネッサンスを迎える頃には真に有効なものはどれかといった議論がなされ、単独の薬草が使われるようになりました。今では薬草成分を化学合成できるようになり、薬草の役割は様変わりしました。

### 17 FDC デザインの魅力—樹木・木材分野 羽賀 正雄 (1)

第7回展「M.C デザインの魅力」の姉妹編に当たるもので、FDCを構成する切手・記念初日印・図柄がもたらす情報発信やアート表現の視点からその魅力を探っています。近年FDCの人気(需要)が、切手の乱発や10種単位のシート構成、さらに図柄部分(私製)は競争展になじまないことなどにより一部を除きダウンしています。本展示がFDC収集の向上に少しなりともつながることを念願しています。

**JPS 植物切手研究会のご案内**：植物切手を収集している、あるいは植物切手に関心がある—入会の唯一の条件です。あとは年会費(2,000円)を納入されれば即会員です。主な活動—①会報の発行：年6回(奇数月)、②例会の開催：偶数月第4日曜日、奇数月第4金曜日の14:40～切手の博物館会議室、③ミニペックス「世界の植物切手展」の開催等。

【ご連絡先】 代表世話人 嘉ノ海 暁子 TEL: 03-5951-3311(JPS事務局)、

e-Mail: skanomi@rainbow.plala.or.jp